

【2024 年度地域連携事業】

全面発達を目指す保育実践研修会の開催とネットワークの構築

和久田佳代（聖隷クリストファー大学）

連携機関：浜松リズム遊びの会、クリストファーこども園

目的

本事業の目的は、全面発達を目指す斎藤公子の保育実践や河添理論についての研修会を開催し、地域の保育・幼児教育の質の向上に貢献し、また情報交換や学習会のネットワークを広げていくことである。特に、リズムあそび、乳児保育、障害児保育をテーマに行う。

方法・実施内容

1. リズム遊び実践研修会の開催

講師に前田綾子先生（岐阜県くさぶえ保育園園長、斎藤公子保育自然学校、『イラスト版 斎藤公子 さくら・さくらんぼリズム遊び』編著者）を招き、3回の研修会を開催し、延べ197名の参加者があった。計画では2回であったが、参加者からのニーズがあり、第3回を実施した。

いずれも 9:15～12:15 場所：たんぼぼ保育園ホール

回	日時	参加者数	テーマ 内容
1	2024年7月20日	88	基礎編 基本のリズム、1～2歳児・3～5歳児のリズム
2	2024年9月28日	70	乳児編 0～2歳児のリズム『からだの軸をつくる』
3	2025年2月8日	39	深掘り編 年長の卒園期のリズム遊び

(2)河添理論「はう運動遊び」研修会（関連事業）

2024年5月24日、25日

講師に今井寿美枝先生（群馬県児童発達支援施設チャイルドハウスゆうゆう施設長）を招き、クリストファーこども園、ながかみ保育園において、各園の職員研修会として実施した。

本研修は関連事業であり、本学事業費は使用していない。

2. 意見交換会、交流会の開催

研修会の際に集まった保育士、保育教諭で講師を囲んで、意見交換し学びあうことができ、受講後アンケートを通して地域のニーズを知ることができた。

参加者の受講後アンケートの一部を以下に抜粋する。

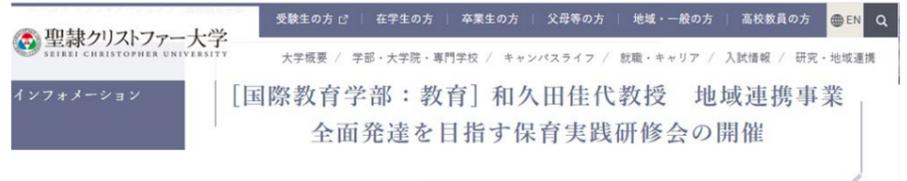
- ♪まず保育者自身が楽しんだり、子どもが楽しいと思えることが大切だと分かりました。
- ♪リズムはこうあるべきではなく、自分達で作りあげていくものとの講師の言葉が胸に刺さりました。
- ♪小さいうちからの身体の土台づくりも大切だな～感じた。
- ♪できる、できない、ではなく、楽しむこと、分からないところを教えてもらうことの大切さを改めて実感しました。まずは大人が楽しむことを大切にしていけたらと思います。
- ♪正しくやることより、楽しくやる、が1番大切なんだと改めて感じた。できなくても一生懸命やる姿勢が大切!!そういう姿を子どもたちに見せたい。一緒にリズムを楽しみたい。

3. 情報発信

研修会の様子を大学HP インフォメーションの記事として、また国際教育学部インスタグラム記事として発信した。これにより、在学生・卒業生をはじめ、地域の保育者などに研修会の開催の様子を伝えることができた。

2025年3月29日に行われた公開講座においても、2025年度に計画しているリズム遊び実践研修会の案内をしたところ、新たに7名から情報提供の希望があった。

(1)大学HP インフォメーション 2024年10月14日



7月20日(土)と9月28日(土)に、たんぼぼ保育園(浜松市中央区初生)ホールにて、浜松リズム遊びの会主催「リズム遊び実践研修会」が開催されました。『イラスト版斎藤公子さくら・さくらんぼリズム遊び』の著者である前田綾子先生(岐阜県くさぶえ保育園園長)を講師に迎え、各園とも約90名の参加者があり、本学の卒業生、学生も参加しました。



このリズム遊びは、子どもの育ちが懸念され始めた高度成長期に子どもの全面発達を目指した斎藤公子氏(1920-2009)の実践から生まれ、全国に広がりました。都市化、情報化が子どもの育ちを阻む現代にこそ、より必要とされ、現在も多くの園で取り入れられています。

第3回実践研修会を2025年2月8日(土)に計画中です。子どもたちの全面発達を目指し、この学びが広がることを願っています。

(2)国際教育学部インスタグラムでの発信 2024年10月5日



地域との連携における成果と課題

- 1)「斎藤公子の保育実践」、「さくら・さくらんぼのリズムあそび」の意義、内容、方法を、浜松市内及び周辺地域の保育士や卒業生に伝えることができ、保育内容、保育の質の向上につながるとともに、継続的な実施体制が整ってきている。参加者にとって、リズム遊びの大切さ、楽しさを自ら実感する場となり、日々の保育の楽しさ、深さ、根拠をもった実践につながっていくと考えられた。
- 2) 園内研修の枠を超えて、複数園の保育士や卒業生の集まる場となり、情報交換、学び合いの場となった。

今後の課題としては、受講アンケートから「保護者と子どもの育ちの共有がしにくい」「園全体の学びにならない」「若手保育士にリズム遊びの楽しさを伝えること」「苦手意識の強い子への声かけやアプローチ」「グレーゾーンや障がいを持っている子のグループでやれること」「弱さをもつ子へのアプローチ方法」「ピアノの技術を強化」などがあげられた。

浜松リズム遊びの会では、2025年度も3回の研修会の開催を計画しており、既に講師の依頼、日程の調整ができています。(2025年6月14日、9月7日、11月29日)この研修会をさらに意義あるものにするために、参加者のすそ野を広げ、卒業生を含むより多くの保育者や発達支援に関わる人の参加につながる情報発信を工夫していくことが必要である。

また、2024年度の事業を通して、乳児(0歳児)の育ちが重要であることがより強く認識されたため、乳児(0歳児)の育ちをサポートする事業を新たに実施していく。